隔日刊
食品新聞
発行所　食品新聞社
http://www.shokuhin.net/
大阪市北区南森町2－3－30
郵便番号　530－0054
電話　06（6361）4972㊐
東京都中央区入船1－9－8
郵便番号　104－0042
電話　03（3552）3756・4031
名古屋市中区丸の内2－10－11
リブラ丸の内6　305号
郵便番号　460－0002
電話　052（221）5391㊐
（支局）広島・福岡
© 食品新聞社 2018
THE JAPAN FOOD NEWS
購読料　半年33,346円

純粋ハチミツ
サクラ印
ハチミツ
㈱加藤美蜂園本舗
本社03－3875－1182

GW境に接点拡大策

飲料

アイス提案やインスタ映えで

飲料各社は主要ブランドで消費者との接点拡大を図ることを目的に、アイス提案など通常とは異なる飲用シーンでの露出に取り組んでいる。

注目を集めそうな話題を提供することで、消費者に情報拡散してもらい、ブランドを浸透させる狙いもある。

アサヒ飲料は「三ツ矢サイダー」をマイナス5度に冷やして数量限定で販売する専用コラム＝写真①＝を設けた自販機を展開している。5月に約150台の設置を予定し、そのうちの1台が東京・お台場に設置され、4月27日、メディアに公開された。POPやデジタルサイネージ＝同②、③＝で〝氷点下の三ツ矢サイダー〟をアピールしている。

一方、フォトジェニックで攻めるのは「ファンタ」（コカ・コーラシステム）。4月28日から30日までの期間限定で「ファンタ カンパイガーデン」を東京＝同④＝と神戸の2か所でオープンし、来場者に無料で「ファンタ」を使ったフロート＝同⑤＝を提供した。フロートはカスタマイズアイスクリーム専門店「#goody（グッディー）」の監修の下、アイシングクッキーとトッピングが施されインスタ映えを意識。21種類を用意した。

これに加えてコカ・コーラシステムは、世界初の容器入りフローズン飲料（清涼飲料水）として「コカ・コーラ フローズン レモン」を4月16日に新発売した。

同商品の狙いについて、発売日に本社で発表した日本コカ・コーラの島岡芳和マーケティング本部炭酸カテゴリーコカ・コーラTMグループ統括部長は「今まで『コカ・コーラ』をあまり手に取られなかった人や最近飲まれなかった人に新鮮な新しさと驚きをもって『コカ・コーラ』にもう一度触れていただき、おいしさを再発見してもらいたい」と説明した。フローズン飲料は「ファンタ」でもラインアップしている。

PETを凍らせる凍結ボトルの提案も強まっている。サントリー食品インターナショナルは「ヨーグリーナ＆サントリー天然水」「朝摘みオレンジ＆サントリー天然水」「サントリー 南アルプスの天然水＆はちみつレモン」の3品で冷凍兼用ボトルを活用した楽しみ方の提案を強化。「今夏にはラベルをさらに刷新し、もっと氷が感じられ清涼感をアップしたデザインを採用する」（江藤雄資ジャパン事業本部プランド開発第一事業部課長）。

伊藤園は「お～いお茶 緑茶」「健康ミネラルむぎ茶」に加えて「タリーズコーヒー」でも冷凍対応商品「トリプル テイスト ジ アイス」を新発売した。

マシンを使ってボトルコーヒーの需要喚起を図るのはネスレ日本。同社は4月1日、「ネスカフェ ゴールドブレンド アイスコーヒーサーバー」を進化させたハンディタイプを新発売し、アイスコーヒーの上にきめ細かい泡がのった「アイスクレマコーヒー」を提案している。業務用ではUCCとキーコーヒーも専用サーバーを使ったアイスコーヒーを展開している。

①

②

③

④

⑤

三島食品

〝脇役戦略〟が奏功

「−18℃」商品で販路拡大

三島食品の業務用商品「−18℃以下保存」シリーズが伸長している。末貞操社長が提唱する〝脇役戦略〟が奏功し、新規チャネルへ拡大。今期も前年比120％で推移する。

同社の業務用商品はドライのふりかけ、ペーストの佃煮、レトルトの惣菜など常温商品が主力だが、以前から唯一のチルド商品として「梅しらす」を扱っており、ドライに比べ素材の食感や風味が生かせる点が支持を集めていた。

その後、徐々に低温で扱う商品を増やし、昨年か月から半年なのに対し、同シリーズは1年。温度帯を変更し12品をシリーズ化。現在は14品を揃える。

チルドの賞味期間が4か月から半年なのに対し、同シリーズは1年。

「流通にもユーザーにも扱いやすくなった」（佐伯俊彦マネジャー）ことが、販路の拡大を後押しした。オペレーションの手軽さが人手不足の解消に役立ち、14種類という豊富な品揃えが、ホテルの朝食ビュッフェをはじめとする新業態の開拓につながっている＝写真。

末貞社長は「主役の食材を引き立てる役目を担う『脇役戦略』に力を入れている」と話す。これまでも冷食メーカーと組み、〝主役〟となる各社の商品規格に合わせた調味料を提案し成果を挙げてきた。「−18℃以下」シリーズの各商品もハンバーグやパスタ、豆腐のトッピングなど〝主役〟に花を添えるような使われ方がなされている。

また同シリーズの「梅しらす」と並ぶ売れ筋商品「五穀とひじき」は昨年、家庭用の新シリーズ「五穀美餐」を発売するきっかけとなった。このように、業務用から家庭用商品への波及効果も表れている。

逆光線

「夏も近づく八十八夜」と来れば、新茶の季節到来となる。今年は寒さの厳しかった冬から、一気に初夏を思わせるような暑い4月となり、一番茶は順調に生育し鹿児島は早くも最終盤を迎え、静岡はピークを越えつつある▼ここ数年、産地を悩ませているのが茶価の低迷。急須で淹れたお茶を飲む家庭が減り続け、高いお茶が動かなくなっている。以前は1kg5千円から始まり半月以上かけて1千円台に下がってきた相場が、今ではI週間程度で1千円台に突入し千円割れも珍しくないという状況に拍車が掛かっている▼静岡茶市場では先月末に〝価格が下げ止まらず過去に経験のない事態〟というコメントを出した。販売力のある茶商へは、いくらでもいいから引き取ってくれと雪崩のように玉が集まって来ている▼逆に二番茶以降には買いが殺到し、茶価も順調に上がっている。PET飲料需要だ。ただ、二番茶の平均価格は一番茶の3分の1程度、生産者には死活問題だが、茶価低迷を受け一番茶をPET原料に使用するメーカーが出てきた。産地は大きな転機を迎えている。

お知らせ
7日付は休刊とさせていただきます。ご了承下さい。
食品新聞社

この人と30分

産業構造が変わる

経験生かし変化対応促進

伊藤忠食品　社長執行役員　岡本 均氏

4月1日に伊藤忠食品の社長執行役員に就任した岡本均氏が1日、東京本社で開催された決算説明会に臨み、抱負などを語った。伊藤忠商事の代表取締役経験者が傘下食品卸の社長を務めるのは、田中茂治氏（現・日本アクセス会長）以来2人目。会見では急速な技術革新が国内食品流通に与える影響などに言及、視野と見識の広さをマスコミ関係者に印象付けた。

当日の発言は大綱つつ、独立した上場企業として独自の戦略を実行し、ビジネスを進化させ以下の通り。

4月1日付で社長執行役員に就任した。近年、当社ではマネジメントが相次いで交代したが、「価値を追求し、信頼されるグッドカンパニーへ」という経営ビジョンの強みを最大限に活用しつつ、独立した上場企業として独自の戦略を実行し、ビジネスを進化させていく。

第4次産業革命によって生じる破壊的なイノベーションを受け、産業構造は今後劇的に変化するだろう。その中でも必要とされる卸像を築き上げるためには、大胆なチャレンジが必要不可欠になる。それを先頭に立って推進するのが私の使命であり、強い決意をもって臨んでいきたい。

就任1か月でまだ勉強中の身だが、食品卸にはしっかりした機能があり、単なるあてがい扶持ではない機能対価を獲得できていると思う。その業にも取り組んでいきたい。

消費者向けのビジネスにかかわってきた経験を生かし、もう少しイニシアティブを取れる仕事、収益につながる主体的な事業にも取り組んでいきたい。

（このタイミングで社長に選任された理由を聞かれ、選任した側ではないのでお答えしづらいところだが、繊維の経験に加え、この3年間、私が伊藤忠商事の経営企画担当役員として新技術の活用に取り組んできたことが大きいのではないか。食品流通は非常に安定した業界だが、その一方で、イノベーションが起こりにくい分野でもある。流通と新技術の融合を進めていく上で、私の経験や人脈がいうことであるだろう。また、最近で、こうしては食品分野でもクレジットカードや電子マネーの使用頻度が高まっている。今後は当社としても金融・決済機能の整備を検討したい。一つの機能に固執していては、なかなか先につながらないし、変化に取り残されまれるかを考えていかなければならない。食品のeコマースが広がった時、小売店への供給に重きを置く今までの卸のビジネスが通用するのかという疑問もある。商品開発のようなメーカー的なで、私の経仕事を請け負いながらe コマース向けのビジネス生かせるとを組み立てていく必要が

（業界の）内側だけを見て今後の産業構造変化のだと認識している。

潤滑油という役割に終始し、流通の中でイニシアティブを取るケースが少ないのでお答えしづらいところだが、繊維の経験に加え、この3年間、私が伊藤忠商事の経営企画担当役員として新技術の活融合すればシナジーが生しまう。

嗜好品として最古の記録か

コーヒー

渋沢栄一・杉浦譲共著の「航西日記」に収められている朝食の記事（傍線部）。出典：澁澤榮一・澁佛日記（東京大學出版會）

渋沢栄一・杉浦譲の「航西日記」

「食後カップへエーといふ豆を煎じたる湯を出す砂糖牛乳を和して之を飲む頗る胸中を爽にす」――。

これは渋沢栄一・杉浦譲共著の「航西日記」に収められている朝食の記事＝写真＝で、コーヒーを嗜好品として記録した日本最古のものとなる可能性がある。同著以前にも志筑忠雄や大田南畝、宇田川榕菴らがコーヒーについて書き残しているが嗜好品としての記述は見られない。

「航西日記」は渋沢栄一と杉浦譲が1867年（慶応3年）に徳川昭武の随員としてフランスを訪れた際の体験記で、徳川昭武、さらにはその実兄の徳川慶喜もコーヒーをたしなんでいた。（4面の特集記事に詳報）

きょうの主な内容
「アジア貿易量、推定2千800万tへ拡大」（輸入塩特集　6～7面）
「韓国塩事情紹介」（塩版　8面）

愛は食卓にある。kewpie
たっぷりたらこのうま味と、まろやかバターのコク。

NEW!

たっぷりのつぶつぶたらこと、ほんのりとしたバターのバランスのよいおいしさ。食べ始めから終わりまで、たらこの風味をしっかり味わいながら、バターのまろやかさが口の中いっぱいに広がります。
キューピー あえるパスタソース たらこ
www.kewpie.co.jp/tarako